

熟塾公開講座 ～ 緒方洪庵先生生誕200年記念講座 第三弾 ～

大阪歴史博物館見学と

江戸時代の適塾界隈の

蔵屋敷タイムスリップツアーを楽しもう会

講師：大阪歴史博物館学芸員 豆谷浩之氏

日時：2010年 3月21日(日)

緒方洪庵の父は、足守藩の大坂蔵屋敷の留守居役であり、父が中津藩の大坂蔵屋敷勤務中で生まれたので福澤諭吉も、大坂で産声を上げました。中之島界隈を中心に軒を並べた全国の蔵屋敷が、大坂へ人・物・情報を呼び寄せた。“天下の台所”と称された江戸時代の大坂へタイムスリップしようと、蔵屋敷の展示もある大阪歴史博物館に集合しましたが、特別な5つのイベントも楽しめました。

5つの「特別」も満喫しました。

① 特別展「聖地チベット ～ ボタラ宮と天空の至宝 ～」

チベットの文化を紹介する日本初の本格的な展覧会。チベットの成立にはじまり、チベットで発展した独特の魅力あふれる仏像・仏画などの密教美術、歴代王朝との交流を示す中国陶磁器、そしてチベット医学や楽器なども含めて幅広く紹介。ユネスコ世界文化遺産にも登録されているチベット自治区のボタラ宮や河北省承德宮をはじめとする、宮殿や寺院に保存されている至宝約120件（うち36件は日本の国宝に相当する国家一级文物）によるチベット文化の精髓を展示！を見学。

※密教的な要素が散りばめられた仏像は、どれも躍動的で官能的で、生き生きとした表情を持っていました。高い文化水準を物語るかのような人体の解体図や、高僧の頭蓋骨を美しく飾り付けた法具も目を引きました。



② チベットランチの昼食

大阪歴史博物館1階レストラン「スターアイル」で特別展に期間中の特別メニュー「チベットランチ」を味わいました。

※レストラン内の特別室で私たちだけでゆっくり味わえたのはよかったです。チベットランチの内容が、サーモンサラダ、ソーセイジ入りのカレーに、かた焼きそばと野菜たっぷりでしたが、はたしてこれがチベット料理？！



③ NHK連続ドラマ「ウェルかめ」のお遍路宿「はまもと荘」のセット見学。

NHK大阪放送1階アトリウムでは『開局85周年記念事業・さくら祭り』が3月12日～22日まで開催されており、収録が終わった連続ドラマの「ウェルかめ」の舞台、お遍路宿「はまもと荘」の玄関から食堂、厨房・居間や中庭を挟んでCAFF BLUE WAVE までのセットが、ど〜んと広いアトリウムに据えられており、思い出と共に一回り。

※「ウェルかめ」ファンの塾生の井上章さんも大感激。なかなかテレビドラマのセットなんてお目にかかれないうものね～。収録が終わったばかりなので役者さんたちの面影や余韻もただよっているようでした。



④ 古代史ドラマスペシャル「大仏開眼」の衣装も展示

4月に放映された「大仏開眼」で実際に着用された聖武天皇や光明皇后や阿部内親王や吉備真備の衣装がずらりと展示。

※聖武天皇は、奈良に都をおき、仏教のメッカであった四天王寺参拝や、難波宮へも御幸され、河内6大寺のうち、柏原のカタシモワインの工

場に高くそびえた二重の塔に挟まれた金堂に安置されていた大仏をご覧になり感動。大仏建立を発願されたのだが、ドラマではどう描かれるのが楽しみ!



⑤ 「大仏開眼」等身大大仏セット見学。

野外では、高さ9m、幅9m、奥行4.5m、重さ約2トンの「大仏開眼」で実際に使用された等身大大仏セットを見上げました。



※大仏様のお力を持って国を治めたい。聖武天皇の大きな思いを人力だけで造り上げた奈良時代の人々もすご〜いと思ひながら、思わず合掌!

追加:あなたも仏像になれる? 仏像の衣・「如来」着装を体験!

ちょうど「あなたも仏像になれる?」体験チケットを配っていました。なんだか「菩薩」の方に並ぶ人が多いので、取りあえず塾生の森川さん・塩本さんに、一般の枝松さんに、原田も「如来」のチケットをゲット。で、着替えてみると、「菩薩」体験に人気があったのが、一目瞭然。その違いが衣にも大きく表れています。「菩薩」は、出家する前の釈迦の姿をモデルにしているので、左肩から右脇にかけて条帛をかけ、天衣を肩や腕に絡ませ、下半身はスカートのよ

うな裳(裙)をつけ、頭には冠や髪飾り、首飾りに腕環にネックレスと裕福な王族そのままの装飾品できらびやかに飾り立て、仏像では怒った顔の馬頭観音を除いて、女性的な柔和な顔をしているので、優しい顔の女性を、「菩薩のような」と称されるほどとても優美だったのです。それに比べて、「如来」は悟りを開いた釈迦の姿を現すので、衣一枚をはおるだけで装飾品もなし。悟れば、「色即是空」なのではないでしょうか・・・

原田如来は「熟塾」で悟りを開けるか?!



1時半〜3時:

講義「適塾界隈の蔵屋敷散策タイムス
リップツアーを楽しむもう!」

講師:大阪歴史博物館学芸員 豆谷浩之氏

会場:大阪歴史博物館第一会議室

緒方洪庵が何故、大阪に適塾を開くのか! 塾頭の福澤諭吉は中津藩蔵屋敷で生まれた大阪生まれの浪花っ子! 天下の台所と称された江戸時代の大阪で米や各藩の特産品を高く売ろうとした蔵屋敷の武士と出入りの商人が大駆け引き。相場を図るには、今も昔も情報収集が大事、脅威の蔵屋敷情報ネットワークによって緒方洪庵の名声も全国へ。

講師の豆谷氏は、大学で日本近世・近代史(文献史)を専攻。大阪市文化財保護担当の学芸員として大阪市内の蔵屋敷遺跡の発掘・調査研究を行い、1999年から新大阪市立博物館立ち上げの仕事に従事、天下の台所のコーナー製作にも尽力。今回は発掘の現場写真や江戸時代の絵画を駆使し、わかりやすくお話いただきました。

1、蔵屋敷の基礎知識

蔵屋敷都とは…岩波書店「広辞苑」第三版によると:「近世、諸大名が貨幣入手の必要から、領内の米穀その他の物産を貯蔵・販売するために、大津・大阪・江戸などに設けた、倉庫と販売事務所とを兼ねた屋敷」

蔵屋敷の数は:最大時で130以上を数える。

江戸時代、大阪では倉敷は何処にあったのか：

- ① 水運の便がよい。
 - ② 新開地で敷地が確保しやすいという条件から、中之島・堂西天満に集中していた。
- 蔵屋敷の土地は、原則として借地扱いだった。

2、蔵屋敷の役割

各藩の流通・販売拠点としての機能

藩の収入のメインが「年貢米」なので、もっとも重要な商品は「米」

【蔵米＝蔵屋敷で扱う米の大まかな流れ】

各地で年貢米を徴収し、大坂（蔵屋敷）へ搬送・保管。
→入札によって販売（米仲買の商人を決定、「米切手」（商品券）を発行。
→堂島米市で「米切手」を売買
→蔵屋敷で「米切手」と米を交換→市中に流通（小売の米屋）

◎蔵屋敷で扱われた米以外の商品は…

米相場は不安定なので、安定した現金獲得の手段として各地の特産物を藩の専売品として大坂で販売。

和紙：高知藩・萩藩・岩国藩・広島藩・津和野藩
鉄：広島藩等 白皮：姫路藩 藍：徳島藩
砂糖：鹿児島藩 鯉節：高知藩 朝鮮人参：対馬藩
陶磁器：佐賀藩

◎蔵屋敷に関わる人々

蔵役人：各藩から派遣されてきた武士。責任者は「留守居役」と呼ばれることが多い。

名代：蔵屋敷の名義を持つ町人、蔵元や掛屋を兼ねることもあった。

蔵元：蔵屋敷の商品を管理・販売する商人（但し江戸時代の初めは武士もいた）→今で言う「商社」

掛屋：蔵屋敷の金銭を管理する商人・蔵元と兼任する場合もあった。→今で言う「銀行」

用聞：蔵屋敷を持たない藩の商品流通等に従事する商人→今で言う「代理店」

仲仕：米の運搬などに従事する労働者 蔵屋敷の周辺にすんでいた。

3、大坂出張としての機能

◎蔵屋敷を通じたネットワーク

武士：他藩の蔵屋敷や幕府の諸役人

商人：出入りの商人など

・江戸時代でも情報交換が大事→メディアが少ないの

で直接交流するのが主流

- ・交流の場として米相場が経った北浜に近い、北の新地・南の道頓堀界隈の芝居小屋が栄えた。
- ・交流のツールとして、茶の湯特に煎茶が流行した。

4、庶民にとっての蔵屋敷

◎蔵屋敷内に置かれた神社。領地に関係した神社を祀る事が多い。

厳島社：広島藩 ・ 金毘羅社：高松藩・丸亀藩
水天宮：久留米藩 稻荷社 佐賀藩・土佐藩・高知藩ほか多数。

→祭礼の時だけ、一般の参拝を認めることもあった。

◎蔵屋敷の風景

蔵屋敷は水辺にあり、風光明媚な場所として知られ、様々な絵画にも描かれた。

「山崎の鼻」備中成羽藩（江戸時代、中之島は中央公会堂辺りまでしかなく、その崎に成羽藩の蔵屋敷があり・観月の名所と謂われていた）

「鍋島浜の夕涼み」佐賀藩（大阪高等裁判所辺りに佐賀鍋島藩から由来して鍋島浜と呼ばれていた。蔵屋敷前には舟を入れる為に道沿いに大きな橋があり「船入橋」と総称され、他に高松橋・徳島橋・熊本橋などもあった。

「蛸の松」福島正則が植えたと言われる広島藩・久留米藩の間に枝を八方に広げた大きな松があり、碑が今も建つ。



※会議室の前で記念写真後、3時～5時まで各自で一般展示・チベット展を自由見学しました。

参加者

塾生：池崎宗男・井上章・北原祥三 木村正治・塩本妙子・下野譲・田中俊三・中島一・中村孝夫・原田彰子・丸山公子・森川知世子・宮本雅彦
一般：青地吉子・上田浩人・枝松緑・斎藤充・田浦ちづこ・辻本智子・東口恵子・丸山賀子・三輪なおみ・安田行秀・